

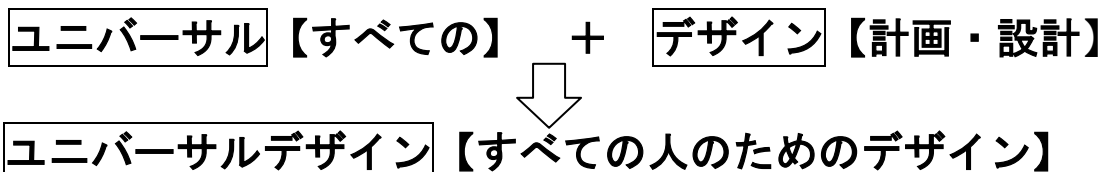
## 第1章 ユニバーサルデザインの考え方

### 1 ユニバーサルデザインとは

「ユニバーサルデザイン」の「ユニバーサル」は「すべての」、「デザイン」は「計画・設計」するという意味です。

この二つを組み合わせた「ユニバーサルデザイン」は、すべての人に配慮して計画・設計するということを意味しており、年齢や性別、国籍、能力等にかかわらず、様々な人に配慮して、はじめからすべての人が利用しやすいまちや施設、物（製品）、環境、サービス等をつくろうとする考え方で、「すべての人のためのデザイン」ともいわれます。

この考え方は、アメリカの建築家でノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター所長であった故ロナルド・メイス氏によって、はじめて提唱されました。



#### (1) 基本的な考え方

##### ① すべての人が対象

ユニバーサルデザインは、高齢者や障がい者等を対象とした特別な取り組みを行うものではなく、すべての人が生活・活動しやすい環境づくりを行うものです。

##### ② はじめからの発想

ユニバーサルデザインは、事後的な対応ではなく、はじめからすべての人のニーズを考慮し、すべての人が生活・活動しやすい環境づくりを行うものです。

##### ③ 終わりなき取り組み

ユニバーサルデザインは、高齢者や障がいのある人の利便が健常者の水準に達すれば取り組みが終わるというものではなく、健常者も含めたすべての人の利便を向上させることを目指すものです。このため、今より少しでも利用しやすいものにすることを目指して、見直し、改善に絶えず取り組んでいく姿勢が求められることになります。

## (2) 7つの原則

ユニバーサルデザインの推進は、7つの原則に基づくことが求められます。

### 原則1 誰にでも公平に利用できること

誰にでも利用できるように作られており、かつ、容易に入手できること。

#### 【基本要件】

- ・誰もが同じ方法で使えるようにする。
- ・差別感や屈辱感が生じないようにする。
- ・誰もがプライバシーや安心感、安全性を得られるようにする。
- ・使い手にとって魅力あるデザインにする。

《例》



様々な人の利用を考え、設置高を変えている公衆電話



乗り降りしやすいノンステップバス

### 原則2 使う上で自由度が高いこと

使う人の様々な好みや能力に合うように作られていること。

#### 【基本要件】

- ・使い方を選べるようにする。
- ・右利き、左利きどちらでも使えるようにする。
- ・正確な操作がしやすいようにする。
- ・使いやすいペースに合わせられるようにする。

《例》



音声機能つき案内板



左右どちらの手でも使えるはさみ

### 原則3 使い方が簡単ですぐわかること

使う人の経験や知識、言語能力、集中力に関係なく、使い方が分かりやすく作られていること。

#### 【基本要件】

- ・ 不必要に複雑にしない。
- ・ 直感的にすぐに使えるようにする。
- ・ 誰にでもわかる用語や言い回しにする。

《例》



ピクトグラム（絵文字）🔑を用いた表示



開け方が明記してある缶

### 原則4 必要な情報がすぐに理解できること

使用状況や、使う人の感覚・視覚などの感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に伝わるように作られていること。

#### 【基本要件】

- ・ 大切な情報を十分伝えられるように、絵や文字、手触り等異なった方法を併用する。
- ・ 視覚、聴覚等に障がいのある人が利用している様々なやり方や道具でも情報がうまく伝わるようにする。

《例》



点字によりアルコール飲料であることがわかる缶



ギザギザがついていて、触るとリンスと区別できるシャンプーボトル

## 原則5 うっかりミスや危険につながらないデザインであること

ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られていること。

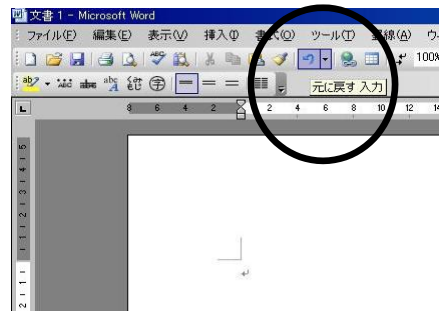
### 【基本要件】

- ・危険やミスをできる限り防ぐ配慮をすること。
- ・危険な時やミスを犯したときは警告する。
- ・間違っても安全なように配慮する。

### 《例》



お湯が沸くと鳴るやかん



パソコンの「元に戻す」ボタン

## 原則6 無理な姿勢や強い力なしに楽に使えること

効率よく、気持ちよく、疲れないで使えるようにすること。

### 【基本要件】

- ・自然な姿勢のままで使えるようにする。
- ・あまり力を入れなくても使えるようにする。
- ・同じ動作を何度も繰り返すことを、できるだけ少なくする。

### 《例》



握りやすく設計されたスプーン



レバーハンドル式の水栓

## 原則7 利用しやすい大きさや広さであること

どんな体格や、姿勢、移動能力の人にも、アクセスしやすく、操作がしやすいスペースや大きさにすること。

### 【基本要件】

- ・立っていても座っていても重要なものは見え、あらゆるものに楽に手が届くようにする。
- ・補助具や介助者のためのスペースを十分確保する。

《例》



介助者のためのスペースが確保されたトイレ



現金の投入口の大きな自動販売機



## 2 バリアフリー<sup>㉞</sup>からユニバーサルデザインへ

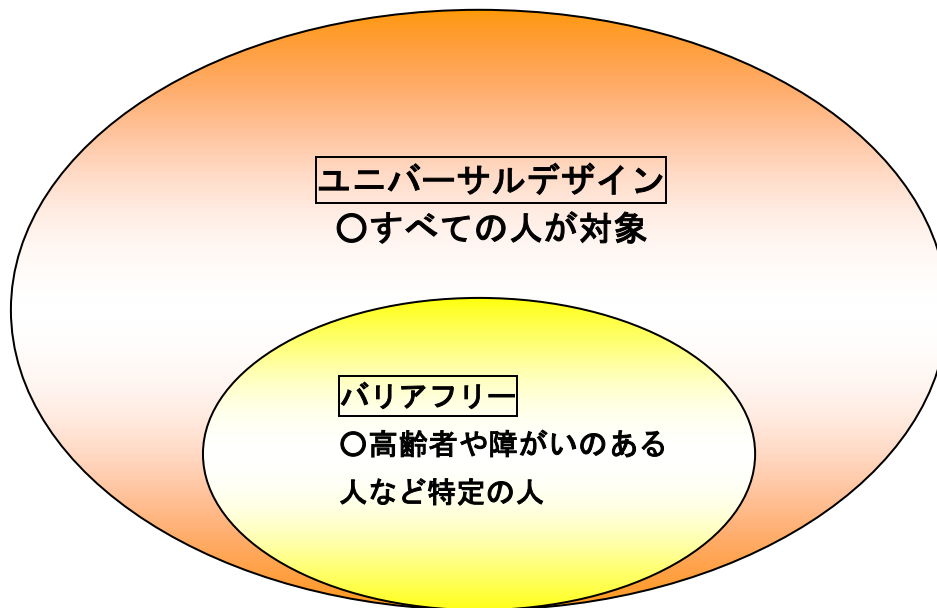
ユニバーサルデザインと同様に、より暮らしやすい社会を実現することを目指した考え方に「バリアフリー」があります。

バリアフリーとは、「高齢者や障がいのある人などが生活するうえで妨げとなる障壁をなくす」という意味です。

<b>バリア</b>	<b>【障壁】</b>	+	<b>フリー</b>	<b>【なくす】</b>
------------	-------------	---	------------	--------------

バリアフリーが「主に高齢者や障がいのある人など」を対象としているのに対し、ユニバーサルデザインは「すべての人のため」を考えていること、また、バリアフリーが「すでにある障壁をなくす」ことを目指しているのに対し、ユニバーサルデザインは「はじめから障壁をつくらない」ことを目指しており、ユニバーサルデザインは、バリアフリーの考え方を踏まえつつ、さらに一歩先に進んだ考え方であるといえます。

【バリアフリーとの関係イメージ図】



【バリアフリーとユニバーサルデザインの違い】

区 分	バリアフリー	ユニバーサルデザイン
対象者	・ 高齢者や障がいのある人など特定の人	・ 年齢、性別、能力、国籍等に関らず、健常者も含めたすべての人
発想	・ 事後的な発想	・ はじめからの発想
バリア（障壁）への対応方法	・ 社会生活上、既に存在しているバリアを取り除く	・ バリアをつくらないようにする
取組みの度合い	・ 特定の人ที่ไม่自由なく利用できるようになれば、取組みが終わる	・ 現状より少しでも利用しやすいものにすることを目指して、見直しや改善に絶えず取り組む
問題点	・ 差別感を生じさせてしまうおそれがある ・ 対応のコストが高くなりやすい	・ 個々に異なる障がいへの対応が難しい ・ 重度の障がいへの対応が難しい



## 【バリアフリーとユニバーサルデザインの事例】

	バリアフリー	ユニバーサルデザイン
トイレ	<p>車いす用トイレ</p>  <p>障がいのある人につくられたトイレ</p>	<p>多目的トイレ♿</p>  <p>オストメイト用洗浄台、オムツ交換台等があり、様々な人が利用できるトイレ</p>
バス	<p>リフト付きバス</p>  <p>車いす用昇降機をついたバス</p>	<p>低床（ノンステップ）バス♿</p>  <p>誰もが乗り降りしやすいよう乗降口の段差をなくしたバス</p>
水飲み場	<p>高さの低い水飲み場</p>  <p>子ども等のためにつくられた水飲み場</p>	<p>高さの違う水飲み場の併設</p>  <p>身長等に応じて選択できる水飲み場</p>